



おもな記事 エゾシカの効率的捕獲調査 (本間浩昭 p2)  
／分布域拡大中 (梶光一 p3)／エゾシカ質問箱 (宇野裕之 p5)／良い鹿肉だけ流通させたい (上田邦夫 p6)

## 西興部村でエゾシカ有効活用ツアー

エゾシカの有効活用を体験するユニークなエコツアー (主催・野生動物教育研究室WEL、協力・西興部村猟区管理協会、後援・エゾシカ協会) が2月13～15日、西興部村で開かれた。群れの観察からシカの解体・調理、さらに試食会まで、参加者たちは「シカづくし」の3日間を堪能した。(報告・平田剛士)

### 第1日

「自然案内人のための野生動物講座」と銘打たれたこのツアーには、自然好きな男女7人が参加した。同村のホテル「森夢」に集合すると、さっそくシカウォッチングに出発だ。

ガイドを務めるのは西興部村猟区管理協会の大沢安広会長。同協会は北大と調査研究を実施中で、「学術捕獲」許可を得ている。チャンスがあれば参加者たちの前でシカを撃てるよう、大沢さんはライフルを肩にしている。

ワゴン車に乗り込んで村はずれへ。ほどなく林間に群れを発見したが、障害物があって発砲できない。射撃位置を探っているうちに群れは森の中に消えていった。「一発で倒さないとシカが苦しむ。その自信がなければおれは撃たないんだ」という大沢さんの言葉に参加者たちがうなづく。

スノーシューをはいてシカのいた場所へ。「食害」を受けたハルニレに触れ

ながら、同協会の伊吾田宏正研究員に「こんなふうには樹皮をぐると剥かれたら、この木はもう立ち枯れるしかありません」と説明を受ける。参加者たちは細く縦に裂けるニレの皮を試しに噛んでみた。「わ、ほんのり甘い!」

### 第2日

西興部村養鹿研究会の肉処理施設にシカ解体を見学に向かう。到着すると、冷蔵庫の中に立派な雄ジカ1頭が逆さに吊されていた。

ゴムのエプロン姿の大沢さん、伊吾田さんが、ナイフを器用に使って皮を剥ぎはじめる。参加者の大半は、シカはもちろん家畜の解体も見たことがない。後肢から臀部、背中、胸へと皮が剥けていくのを目の当たりにし、「わあ」「おお」と小さな声は上がるが、次第に無口になっていく。

頭部、前肢が外され、背肉やバラ肉がきれいに切り取られた。最後に左右の

てから豚バラ肉や調味料を加え、まずチョッパー、続いてカッターにかける。なめらかになったミンチをスタッパーを使って腸に詰める——と、文字で書くのは簡単だが、初体験の参加者たちは悪戦苦闘。苦勞の末にフランクフルト風の豚腸詰め、ウィンナー風の羊腸詰め、鹿腸に詰めたホンモノ(?)のシカソーセージが大量に出来上がった。その晩の試食会が大いに盛り上がったことは言うまでもない。

### 第3日

最終日は「森夢」の視聴覚室で座学だ。伊吾田さんによるスライド発表「エゾシカ管理の現状と課題」の後、全員で「有効活用」のためのアイデアを出し合った。「健康食品としてイメージアップを」「シカに乗れたり、ソリを引かせたりしたら」「給食や病院食にシカ肉を」「シカ皮のクラフトをおみやげに」などと、楽しい提案が相次いだ。

ツアーを終えての感想を聞くと——「雑草を食べてあんなに美味しい肉を作ってくれるシカを地産地消につなげたい」(30代男性)、「胃袋をつかまれました」(20代女性)、「ぴよんぴよん動いているシカを解体して調理して、最後に食べるころまで体験して、人間が他のものを食べて生きているんだなあ、と実感した」(20代男性)。

WELの遠藤真澄さんは、「参加者のみなさんにシカがとても魅力ある動物だと実感してもらえたら、今度はそのことを次の人に伝える橋渡し役として活躍して欲しい」と話していた。



参加者たちの前でモモ肉を切り分ける伊吾田宏正さん(「森のレストラン」で)

モモを切断。作業がすっかり済むと、ようやくほっとした空気が流れた。ずっしり重い肉塊をクルマに積み込み、今度はシカ料理に挑戦すべく「道の駅・花夢」へ。「花夢」の調理実習室では、同協会の井田宏之事務局長(エゾシカ協会事務局長)が下ごしらえを終えて待っていてくれた。作るのはシカ肉ソーセージだ。シカ前脚肉をカットし

# 根室支庁がエゾシカの効率的捕獲調査

文と写真 本間浩昭

## 「安住の地」長節湖周辺で

「エゾシカ保護管理計画」に基づいてエゾシカの生息数の半減を進めている北海道庁は、根室市郊外で2月2日から捕獲の効率を向上させるための「高効率捕獲法調査」を始めた。風蓮湖の西側から温根沼の東側までカニがはさみを広げたような形の約200平方km範囲で3月30日まで日曜を除く毎日実施する。

初日は北海道猟友会根室支部のハンター4人が鳥獣保護区に指定されている長節湖周辺で駆除を行い、オス2頭を仕留めた。

同湖は国の鳥獣保護区に指定されているため、狩猟も駆除も長い間行われていなかった。このため、銃声を避けたいエゾシカにとっては、「安住の地」として厳冬期に激増する傾向があった。数百頭が生息しているとみられる。

付近に生息するエゾシカは、可猟区と比べてオスの警戒心が乏しいのが特徴。それを裏付けるように、同湖西側の湖面では同日、オスの群れ十数頭が平然と湖面を横切った。ハンターの一人は、湖面から岸に駆け上がった時点で一番大きなオスを仕留めた。

道の統計によると、農林業被害額は、被害が最も深刻だった1996年度と比べ

6割(年間29億4000万円)に抑えられているものの、捕獲圧力が高まったことからエゾシカの警戒心が高まっている。このため、目標としている10万頭まで減らすには、さらに4万頭を捕獲する必要がある。

捕獲予定数は100～200頭、主に4種類の捕獲法を予定している。①車で探索するタイプの従来型「流し猟」②群れを囲むようにハンターを配置し、勢子が追

い出して撃つ「巻き狩り」③エサで誘導する「おびき寄せ」④エサに集まってきたエゾシカを網で囲って捕獲する「囲い込み」。道ではそれぞれの捕獲効率などを試し、今後の個体数の管理に役立てる方針。

## 捕獲個体はペットフードに

同湖では、ちょうどこの時期、市民らが氷上に穴を開けてワカサギ釣りを楽しむ期間とも重なっている。このため、注意を呼びかける看板の設置のほか、釣り人に直接ハンターが注意を促すなどして安全性の確保に努めている。

なお、危険防止の観点から、湖面での捕獲は認めておらず、ハンターは周辺の岸に追い出したりする形で捕獲に努めている。

捕獲したエゾシカは同管内別海町の解体処理場に運び込み、ペットフードの原料として有効活用する。その一方で、捕獲時に性別、体長、体重、妊娠率などのデータを集めて保護管理の基礎資料とする。

道は同計画の前身として97年に策定した「道東地域エゾシカ保護管理計画」で個体数を半減させる計画を立てたが、2002年度末の時点で目標達成率が20%遅れている。



調査のために捕獲した雄ジカをソリに載せて回収する調査員たち(根室市郊外の長節湖で)

## シカ持続的管理のパブコメ募集

英国・環境食料田園省のサイトから

世界のシカは今

環境食料田園省(Defra)と森林評議会は1月19日、国内の野生シカ管理に関する今後の戦略について、広く国民のみなさまのご意見を募集することにしました。

シカは英国内最大の陸生動物で、自然遺産としても重要ですが、この10年で大半の種が個体数を増やし、生息域を拡大しており、捕食者を欠くなか、シカ管理は緊急課題です。

シカの高密度化に伴い、農林業をはじめ環境保全区域や市街地の庭園などに被害が出ています。自動車との衝突事故など安全面の問題もあり

ます。被害額は正確に表せませんが、交通事故だけでも毎年1050万ポンドと推定され、連邦全体で毎年約15人が亡くなっています。

ブラッドショウ環境相は「シカの群れを健全な状態に保ちながら、食害や交通事故を減らし、生物多様性保全にも寄与できればと願っています。専門家の助言を得ながら、農家や林業家をはじめ、シカ管理に関係する人たちに法的な枠組みを用意します。今回はシカ管理の

当事者やこの問題に関心のある国民に、問題解決に向けてさまざまな提言を募ります。近い将来のシカ管理施策に反映させたいと思います」と述べました。



<http://www.defra.gov.uk/corporate/consult/wild-deer/index.htm>

# エゾシカの分布域 ただいま拡大中

北海道環境科学研究センター

梶 光一

## 包囲



数年前、私の職場に隣接する北大北側キャンパス内の落葉広葉樹の森に、一冬、エゾシカが居ついたことがある。テレビでも放映され、私もある吹雪の日に電話取材を受けた。北大のラグビー場からの実況放送中の電話であり、目の前にシカがいるという。

アナウンサー「このシカはどこからきたのでしょうか」

私「シカに聞かないとわかりません。雪の上についた足跡を逆に追跡すると、わかるかも知れませんよ」

アナ「街中にシカが出るというのは、珍しいことなのでしょうか」

私「現時点では、珍しいといえます。しかし、数年たったらあちこちで報告されるようになりますよ。私たちはすでにエゾシカに包囲されています」

## 再分布



私の予測は当たった。

今では、江別市の野幌森林公園、札幌市の真駒内公園、豊滝、手稲山、藻岩山、小樽市張碓など、札幌市内とその近郊のあちこちでエゾシカの出没が報告されるようになった。

もっとも、私の手元には、1978年から6～7年毎に行なっている分布調査のデータがあり、分布拡大の様子が一目瞭然だったのだから、予測があたっ

たからといって自慢はできない。

エゾシカは、明治期の大雪と乱獲によって一時は絶滅寸前となるまでに激減している。開拓以前には、エゾシカたちは全道のあちこちに大群をなして生息し、雪の少ない東部地域と、雪の多い西部地域の間で大規模な季節移動が行なわれていたという。だから最近の分布拡大は、かつての生息地への再分布ともいえるのだが、よく見ると、冬季でも道北部、道西部、道南部でシカが増えている。もともと、エゾシカは雪に弱い動物である。

## 解析



では、いったい何が分布の拡大をもたらしているのだろうか？

環境省による分布調査事業が終了する頃、タイミング良く国立環境研究所から「野生動物の生息地モデルに関するプロジェクト」のお誘いを受けた。渡りに船と、エゾシカ分布拡大要因の解析に今年から取り組んでいる。野生動物の生息地モデルに関する研究で学位を取って北大フィールド科学センターを修了したばかりの鈴木透君をプロジェクトに誘い、解析を担当してもらうことにした。

## 仮説



私たちは、二つの仮説をたてた。一つは、増え続けるエゾシカ自身もつ、「個体群圧」ともいうべき内部要因。道東から道中部に分布を拡大中のエゾシカ自身が爆発的な増加を続け、分散を

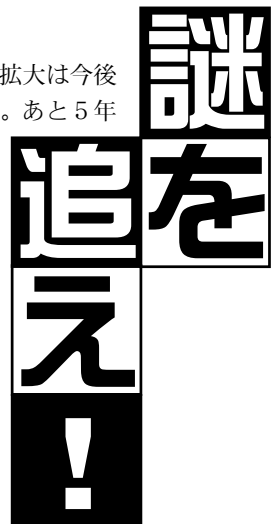
促して分布を拡大しているという仮説だ。

もう一つは、よくいわれているように、地球温暖化や暖冬の影響で、雪の量が減ってシカの分布を制限要因が緩くなったという仮説である。

現在、解析途上にあり、詳細な結論を述べることはできないが、手ごたえとしては、これらの二つの要因とも、今日の分布拡大に影響していることは間違いないようだ。北海道全域でみると、1970年以前の最深積雪深の平均値はおおむね10年刻みくらいで、大きな振幅を繰り返してきたが、1970年以降、振幅の幅が小さくなり、いわゆる豪雪がない。さらに、1990年からは冬の平均気温の上昇が観察されている。地球温暖化、暖冬による雪の減少は冬季の自然死亡を軽減し、またこれまでシカが入り込めなかった多雪地帯への進出を許していると言えそうである。

## 予言

シカの分布拡大は今後も続くだろう。あと5年たったら、アーバンフォックスならぬアーバンディアが出現する、と予言しておこう。



## 短信

北海道遺産第2回候補募集に合わせて、エゾシカ協会の大泰司紀之会長は

## 寄稿歓迎

エゾシカ協会ニュースレターは  
会員同士のコミュニケーションツール

このほど、同候補として「エゾシカ」を推薦した。

「北海道遺産」は、すでに25件が選定されているが、野生動物の指定はまだ。大泰司会長はエゾシカを推薦する理由として、「北海道に約30万頭生息し、肉は美味で、鹿皮からはすばらしい手

## エゾシカを「北海道遺産」に推薦

袋、コートが作れる。それらを『自然資源』として有効に活用し、しかるべき収益も得て、環境保全型地域振興に寄与することが可能」「北海道における野生動物・環境とヒトとの共生のシンボル」などとした。

新しい北海道遺産は秋に決定する。



# 兵庫県の イノシシ肉の場合 「衛生的な鹿肉」流通を めざして

野獣肉をおいしくいただくには、捕獲後すぐに適切な方法で処理（内臓摘出）を始める必要があります。でも北海道の「野獣肉の衛生指導要領」に厳密に従うと、食肉処理業の許可施設以外でナイフを入れたシカのお肉は販売することができません（エゾシカ協会ニューズレター13号など参照）。

イノシシ猟の盛んな和歌山県の場合はどうでしょう。同県には「鳥獣処理加工指導要領」があります。野生鳥獣の肉処理についての取り決めで、イノシシも対象です。

エゾシカ協会の籠田勝基さんが同県の担当課に問い合わせたところ、野生イノシシの場合、解体作業は主に食肉処理場、食肉販売業、食肉製品製造業、

飲食店営業施設などで行なわれますが、最初の内臓摘出は狩猟現場で行なうことを県庁は認めています。

ハンターたちは、抜き出したイノシシの内臓をその場で猟犬に与え（出猟前は絶食させるのできれいに食べ尽くす）、また内臓を抜いたイノシシは川水にしばらく沈めて、冷却すると同時に、体表のダニ類を取り除きます。役所はこれらも認めています。

「ただし和歌山県や北海道も、指導要領に強制力がないのが問題」と籠田さん。「食の安全が問われている今、現場での解体処理から精肉まで一貫した、実際的な衛生マニュアルづくりを進めなければ」と話しています。（平田剛士）

## 野生鳥獣保護管理制度検討会に注目！

北海道庁を事務局とする野生鳥獣保護管理制度検討会（大森司紀之座長、全11人）が昨年末から会議を重ねています。狩猟制度、有害鳥獣捕獲制度、国と地方自治体の関係、保護管理政策など、重要課題が目白押し。このほど公開された第2回検討会（1月14日開催）の議事要旨からトピックを拾ってみると——（文・平田剛士）

### ハードルが高すぎる？

「新しく銃を持つのに15万円必要。銃を30万とすると、合わせると45万円」「ハープライフルは30万くらいか。スコープをつけるともっとする。最低で50万くらいかかる」。こんなやりとりが交わされるのは、ハンター不足が深刻だから。狩猟免許（知事）・銃所持許可（公安委員会）、火薬譲渡許可（同）と、個別の手続きがそれぞれ煩雑なうえ、手数料もバカになりません。

「銃刀法と鳥獣法を一度に試験するのがよい」「どういう試験が良いか提案も必要」といった意見が相次ぎました。

### 二重行政をどう解決する？

可猟区のはずなのに、現実には立ち入り制限されているのが国有林。「二重行政」と揶揄される由縁です。委員からは「道がいかにか（保護管理）計画を作っ

ても国有林に入林出来ないという意味がない」という指摘が出ています。

逆に、「屋久島のサル駆除で国有林職員を撃った」「芦別でクマが半矢で死んでいた」「シカの残滓にクマが引き寄せられる」と、ハンター側の問題点も。

とはいえ「エゾシカ保護管理計画は国有林の問題で破綻する。この場からそれを広く訴える必要性はある」という梶光一さん（オブザーバー）の言葉には説得力があります。

### 鈴木正嗣・野生鳥獣保護管理制度検討会委員（エゾシカ協会理事）の話

エゾシカ保護管理行政にとって、国家公安委員会や、林野庁とのギャップは大きな問題。さいわい、このことは検討会委員たちの共通認識であり、道の「道州制素案」でも北海道独自の狩猟制度に言及している。今後の議論を通じて解決の道を探りたい。

## 御利用御礼

エゾシカ協会ウェブサイト  
**yezodeer.com**

本ニュースレターをインターネットで読むことができます。ぜひご利用下さい。

【ステップ1】エゾシカ協会ホームページ <http://yezodeer.com> に接続します。



【ステップ2】「協会ニュースレター」の文字をクリックすると「ニュースレター一覧」のページが現れます。

【ステップ3】読みたい記事名をクリックすると、記事ページが開きます。

【ステップ4】ニュースレター全文を読みたいときは、ステップ2の「ニュースレター一覧」ページ下方にある「ニュースレター(pdf版) 閲覧窓口」の文字をクリックします。

【ステップ5】パスワードを要求する小窓が開きます。「ユーザー」欄にyezodeer、「パスワード」欄にhirakegoma、と打ち込んで下さい。すべて半角英字です。



【ステップ6】「ニュースレター閲覧窓口」が開きます。ご希望の号数をクリックしてください。

エゾシカ協会事務局にはエゾシカに関するいろんな問い合わせが寄せられます。みなさんの疑問やお悩みにエゾシカ協会のスペシャリストたちがお答えいたします！  
(今号の回答者 宇野裕之＝道環境研・道東地区野生生物室)

へえ〜っ



### 質問01 シカの体重はどれくらい？

エゾシカの体重はオスとメスで大きく異なります。大人のオスの体重は最大で約140kg、横綱の朝青龍関と同じぐらいの重さです。メスの体重は60～80kgぐらい。同じニホンジカの亜種ヤクシカ（屋久島に生息）は体重が30～40kgぐらいしかありません。北と南のシカでは体の大きさが大きく違ってきます。

雄は最大で140kgに、  
雌も60～80kgになる  
北海道のエゾシカ



屋久島のヤクシカは  
おとなになっても30～40kg

### 質問02 夏毛と冬毛の違いって？



鹿の子模様は秋に消えます

5～6月、冬毛から夏毛にかかります。夏毛は赤茶色で鮮やかな白い斑点があり、「鹿の子模様」と呼ばれます。子供も大人も「鹿の子模様」を持つのがニホンジカの特徴の一つです。9～10月、オスシカの角が袋角から枯角に変わる頃、毛皮は夏毛から冬毛にかかります。冬毛は斑点のない灰褐色をしています。オスは交尾期に泥あびをしたりするので全身黒々としています。

### 質問03 シカの食べ物は何ですか？

エゾシカは春から夏、山野に生える様々な草本を餌にしています。木の芽や若い葉も好物です。秋になるとドングリなどの堅果類、冬にはササや若い枝、樹皮を食べています。ササは餌が少なくなる冬期の大切な食物で、雪を必死に掘ってササを食べているシカの姿は印象的です。牧草や畑の作物も大好物なので困ってしまいます。

### 質問04 シカに前歯がないって本当？

子牛に手をなめられたことはありますか？ 前歯がないことに気がつくと思います。シカはウシの仲間、反すうをします。下あごには前歯があるのですが、上あごの前歯はありません。上唇が硬くなっていて、この唇と下あごの前歯を使って草を刈り取って食べます。

### 質問05 シカをどのように数えているのですか？

秋、落葉の季節に、ゆっくり走る車から強力なライトを使ってエゾシカの頭数をカウントします。ライトセンサーと呼ばれる方法で、シカ目が光るので森の中でも見つけやすいのです。毎年同じ時期、同じ地域で調査を行い、数が増えているのか、減っているのか、ということを明らかにします。雪が積もっている時期に、ヘリコプターから森の中のエゾシカをカウントする調査も行われています。

# 品質の良い鹿肉だけを流通させたい！

上田邦夫（新得町在住、上田精肉店代表）

私共とエゾ鹿の出会い、かれこれ二十年になる方としています。

その頃、人口の都市への流出と大型店の進出、便利な宅配システムの強化等、地方の商店にとっては逆風が吹き荒れておりました。そんな中であって独自の技術を生かし、他には真似の出来ないものを持ちたいと云う願望があり、折しものグルメブームもありエゾ鹿を扱おうと云う結論に達したのです。

処理場と冷蔵庫を建てた最初の年は、ハンターの方々との関係が出来ないままのスタートでした。中間業者からの持ち込みに頼らざるを得ませんでした。狩猟された物とはいえ、時間の経過、血抜きが悪さ等々、頭の痛い問題ばかりでした。自分がこれ

から自信を持って売り出そうと云う商品を、人任せにした事を強く後悔しました。

とにかくハンターの方々と直接話したい！  
こちらの要望をくみとってほしい！

自分が長くこの仕事を続けていく為に、品質の良い物だけを流通させたい！

その思いを伝える為に翌年からは積極的にハンターの方々に働きかけました。

「鹿肉食べて美味しかった。又食べたいね！」

そんな食べ物になって欲しかったのです。

お陰様で多くのハンターの理解を得られ、年々取り扱い頭数も増えました。以前は問屋からの注文がほとんどでしたが、インターネットの普及等で全国各地から様々な御注文をいただきます。

鹿肉の部位によっては不足しがちな時もあります。こんな時代にあって、誠に有難い事です。

これからも良い品物を流通させるよう、努力いたします。



上田精肉店

北海道 上川郡新得町 1 条南 2 丁目 7 番地

電話 01566-4-5107 fax 01566-4-5107

e-mail ueda.seinikuten@bb.wakwak.com

URL <http://park10.wakwak.com/~ezodeer/>

## エゾシカ協会平成16年度総会は5月8日開催 西興部村「森夢」で

日頃から(社)エゾシカ協会の運営にご協力いただきありがとうございます。右記のように総会を開催し、同時にセミナーを行います。今年は札幌を離れ、網走管内西興部村で行なうこととしました。(エゾシカ協会事務局)

日時 平成16年5月8日(土曜日)

会場 「ホテル森夢」(電話01588-7-2000)

セミナー13時30分～15時30分、総会16時～17時、懇親会18時～20時

セミナープログラム(講師、内容は変更になることがあります)

「米国・モンタナ州の狩猟管理システム」伊吾田宏正氏(会員)

「オーストラリア・タスマニアの野生動物管理システム」宇野裕之氏(会員)

「ニュージーランドの養鹿事情」五十嵐敏彦氏(会員)

### 『エゾシカの被害と対策』

定価2000円のところ、エゾシカ協会会員のみなさまには送料のみでお届けいたします。390円切手を張った返信用封筒(B5 or A4)を同封いただき、下記までお申し込みください。

郵便番号064-0803

札幌市中央区南3条西21丁目1-6

社団法人 エゾシカ協会事務局札幌

連絡所 井田宏之

会員無料



社団法人エゾシカ協会ニューズレター

第15号(2004年3月31日)

発行:社団法人エゾシカ協会

会長 大泰司紀之

編集:社団法人エゾシカ協会事務局

事務局長 井田宏之

064-0803 札幌市中央区南3条西21丁目1-6

電話&FAX 011-611-2739

携帯 090-626-02946

Email ida.yezodeer@r8.dion.ne.jp

<http://www.yezodeer.com/>